

1 調査の概要

- (1) 実施日 平成26年4月22日(火)
- (2) 対象 第6学年 2学級 60人
- (3) 目的 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査結果の分析

(1) 教科に関する調査の結果

全国学力・学習状況調査は、国語・算数ともに「知識」に関する問題を主としたA問題と、「活用」に関する問題を主としたB問題とがあります。国語は、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域と「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の1事項に、算数は、「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の4領域に分かれています。

ア 国語

- ◇ 漢字の読みや書きは、相当数の児童ができています。
- ◇ 仮定の表現を用いて適切な文に書き直すことについては、相当数の児童ができています。
- ◆ 司会の役割として話合いの観点を整理したり、質問の意図を捉えたりすることに課題がある。「話すこと・聞くこと」
- ◆ 物語の登場人物の相互関係を捉えることに課題がある。「読むこと」

イ 算数

- ◇ 整数、分数の四則計算をすることは、相当数の児童ができています。
- ◇ 計算の順序についてのきまりを理解して計算したり、計算のきまりを具体的な場面に置き換えて捉えたりすることについては、相当数の児童ができています。
- ◆ 最大値に着目して、グラフに表すことができない理由を言葉と数を用いて記述することに課題がある。「数量関係」「量と測定」
- ◆ 作図に用いられる図形の約束や性質を理解することに課題がある。「図形」

◎本校が学力向上を目指して日々取り組んでいるドリル学習は一定の成果があることが分かり手応えを感じるが、一方で、資料を読み、指示に従って自分の考えを書く問題では依然として課題があることが確認された。

(2) 児童質問紙に関する調査の結果

全国学力・学習状況調査は、国語・算数の教科に関する調査の他、児童質問紙調査があります。この質問紙調査では、児童の学校や家庭における学習状況や各学校での指導の様子が分かります。

ア 学校生活の状況

- ◇ 「将来の夢や目標を持っていますか」「友達に伝えたいことをうまく伝えることができますか」の問いに対して、当てはまる又はどちらかといえば当てはまると肯定的に回答した児童の割合は全国平均を大きく上回っている。
- ◆ 「学校のきまりを守っていますか」の問いに対して、肯定的に回答した児童の割合は全国平均を下回っている。

イ 生活習慣と家庭学習の状況

- ◇ 「学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)1日当たりどれくらいの時間、勉強し

ますか」の問いに対して、3時間以上と答えた児童の割合は全国平均を大きく上回っている。

- ◆ 「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」の問いに対して、1時間以上2時間未満と答えた児童の割合は全国平均を大きく下回っている。また、「土曜日や日曜日など学校が休みの日」においても、この傾向は変わらない。
- ◆ 「普段（月～金曜日）1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか」の問いに対して、4時間以上と答えた児童の割合は全国平均を大きく上回っている。

ウ 指導の状況

- ◆ 「5年生までに受けた授業のはじめに、目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか」の問いに対して、肯定的に回答した児童の割合は全国平均を下回っている。
- ◆ 「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか」の問いに対して、肯定的に回答した児童の割合は全国平均を下回っている。
- ◆ 「算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか」の問いに対して、肯定的に回答した児童の割合は全国平均を下回っている。

◎夢や目標を持ち、学校へ行くのが楽しいと思う児童が多い反面、学校における指導の状況では、めあての提示や自分の考えを書く時間の確保に課題が見られる。また、家庭での学習時間が短い点にも課題が認められる。

◇・・・成果が見られる点

◆・・・課題が見られる点

3 調査結果を受けて本校が取り組んでいくこと

(1) 国語における指導の重点（例）

- 目的や意図に応じて話し合う活動を計画的に取り入れていく。司会者の役割を学級の全員が経験し、発言者の立場や見解を分類・整理して討論を進めていけるように、また、参加者が発言者の立場や意図を捉えながら話し合いに参加できるよう指導していく。
- 物語などの文学的な文章の読みでは、中心人物と周囲の主な人物について、行動や会話文、情景描写に着目しながら人物像が分かる言葉を整理するなど、登場人物の相互関係を捉えられるよう指導をより強化していく。

(2) 算数における指導の重点（例）

- 問題を解決した過程を他者に説明するために、言葉や数、図、表、グラフなどの表現を関連付けて表現する時間をより一層充実する。また、表現したことを振り返り、説明の根拠となっている事項が示されているかを確認する指導をより強化していく。
- 図形の学習における作図の指導では、道具の操作や作図の手順だけでなく、図形の約束や性質と結びつける指導をより強化していく。

(3) 学校生活における指導の重点

- わたしたちの道徳（文部科学省）、心のとびら（和歌山県教育委員会）等を活用した道徳教育の充実に取り組む。
- 時間割を見直し、毎朝10分間、本校の課題に取り組むための「学びっこタイム」を新たに設定する。
- 学力向上にむけて児童一人ひとりの実態に合わせてサポートする補充学習をさらに充実する。

(4) 学習習慣の定着を図るために

- 家庭の協力を得るため、定着に向けたポイントや学習時間のめやす、家庭学習における保護者の役割等を記載した家庭学習の手引きを作成する。